

## 70. 従来の胃腸縫合器の欠点およびその対策

高瀬晴夫 (高瀬医院)

クレンメの脚部を少し長めにし、其刺入先端部を中心線より反対側に位置するように加工して圧挫された時にそれが互に交叉し、クレンメが中央部においても組織を全層にわたり、把握圧迫止血できるように縫合器の溝の部分で改良し、またクレンメ同志を斜にしかもそれぞれ多少重なるように配列することにより、各クレンメ間よりの出血も予防でき、その上クレンメ自体あるいは縫合器に磁気を帯びさせることにより、縫合器使用後の不用のクレンメの落下を防止できると考え報告した。

## 71. 発声機能を考慮して腸管皮膚弁遊離移植再建術を行った頸胸部食道癌の1例

木下祐宏 (都立荏原・外科)  
野崎幹彦 (東京女子医大・形成外科)

最近われわれは下咽頭・頸部を中心に、胸部 Iu・Im まで浸潤する食道癌を切除し、胸壁前に挙上した胃管に継ぎ足して空腸の遊離移植、再建術を行い、さらにその発声機能再構築に、東京女子医大形成外科の御援助により遊離移植腸管を用いた食道発声の一種、T-E speech のできる再建術式を試みたので、その術後音声獲得の困難な状態における、術後の音声再構築について検討し、音声獲得の新しい、かつ有効な術式と考え報告した。

## 72. 80歳以上の高齢者食道癌に対する外科治療とその問題点

花岡建夫, 鍋谷欣市, 小野沢君夫  
李 思元 (杏林大)

食道癌277の手術例中10例(3.6%)が80歳以上の高齢者で、6例に切除が行われた。切除術式は右開胸2例、blunt dissection 4例で、再建は一期的2例、二期的4例であった。主な術後合併症は誤嚥と肺合併症、精神異常が各4例にみられた。切除後がいそう反射の回復をみて二期的食道再建を行う術式は誤嚥防止に良く、精神状態の把握と術後のケアを専門医の協力によって行う必要を認めた。

## 73. 胃移植拒絶反応に対する新免疫抑制剤デオキシステロイドの効果

剣持 敬, 鈴木盛一, 林 良輔  
雨宮 浩 (国立循環器病センター)

方法：当センターで経験した腎移植後拒絶反応36例を対象とし、Methylpredonisolone 治療群 (MP 群), Deoxyspergualin 治療群 (DSG 群), 両者併用治療群 (併用群) の3群で検討した。結果：各群の有効率はMP 群：73%, DSG 群：72%と DSG 単独にてもMP 群とほぼ同等の効果を得た。併用群は100%であり、腎移植後拒絶反応に極めて有効であった。DSG の副作用として顔面しびれ感や白血球減少等がみられたが、軽度であった。

## 74. 自家骨髄移植併用大量化学療法の実験—補助化学療法としての試み—

坂本 薫, 渡辺一男, 竜 崇正  
飯塚 浩, 川上義弘, 藤田昌宏 (千葉県がんセンター)

自家骨髄移植を併用した補助化学療法を2例に試みた。1例は31歳、女性。妊娠中に合併した ST III b (T4c N1bM0) 乳癌で拡大乳房切開術施行、2週後自家骨髄移植併用により CAF 療法 (Endoxan 1g, Epirubicin 160mg, 5-FU 1g) を安全に行いえた。他の1例は54歳、女性。切除不能腺癌で開創照射 (30Gy)・腹腔神経節ブロック施行、8日後に EAP 療法 (VP16 900mg, Epirubicin 80mg, CDDP 80mg) とヒト型 G-CSF 併用自家骨髄移植を行った。治療後、疼痛消失し食欲が著明に増加、血中腫瘍マーカー値が半減した。

## 75. 死体腎移植コーディネーター活動の経験

林 良輔, 鈴木 盛一, 剣持 敬  
雨宮 浩 (国立循環器病センター)

1987年4月より当センター近隣の13の救急施設を対象に臓器獲得を目的に移植コーディネーター活動を行っている。これら施設からの臓器提供はこの2年9カ月間で33例あり、そのうち31例が第三次救命救急センター3施設からの提供であった。救急医療側より臓器提供に協力願うためには、現在のところ移植医療側からの働きかけがまだまだ不足しており、移植医療への理解と共に、より密接な協力体制の強化が必要と思われる。